

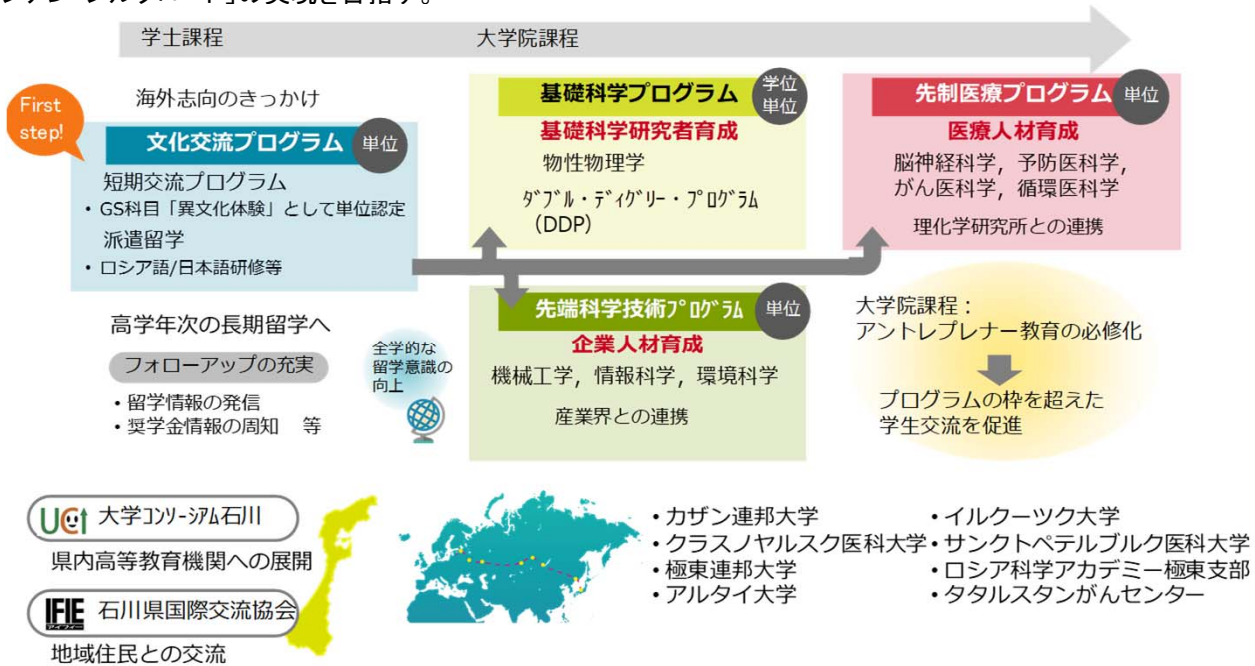
大学の世界展開力強化事業(平成29年度選定) 金沢大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度29年度・(タイプA))

日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム

【事業の概要】

金沢大学とロシアの研究者交流を学生交流へと展開し、本学の人材像に合う学生を育てるだけでなく、将来の日露関係を担う人材育成に貢献する。そのために、ロシアの8つの協定大学等と体系的で多層的な、質の保証された骨太の交流プログラムを構築・実施し、学生交流の規模を抜本的に拡大するとともに、プログラムに地域住民・地域企業との交流を組み込むことで、将来的な地域間の「学術・文化・経済」交流への展開を図る。本事業を通じて、東洋と西洋を結ぶ「21世紀の知(価値)のロシアン・シルクロード」の実現を目指す。



【交流プログラムの概要】

- ①文化交流プログラム(体験交流・単位取得型):日露両国の特徴的な自然環境や長い年月をかけて育まれてきた文化・芸術を学び、将来的なロシア・日本への長期留学への呼び水とする。学士課程学生を主対象としたプログラムで、語学研修を目的とする派遣留学も含む。
- ②基礎科学プログラム(学位・単位取得型):これまでの低温物理学分野での学生の双方向交流を一層促すため、博士前期課程におけるダブル・ディグリー・プログラムと単位互換プログラムを実施。
- ③先端科学技術プログラム(企業人材育成・単位取得型):実学的分野である機械工学と情報科学、環境科学分野で、主に博士前期課程学生を対象に、今後の地域間企業連携を見据えた、企業でのインターンシップ等を組み込む。
- ④先制医療プログラム(研究交流・単位取得型):脳神経科学分野に加え、予防医科学、がん医科学、循環医科学分野における博士課程の交流プログラムを実施。理化学研究所、カザン連邦大学と連携して、将来的には日露医学研究教育センターの開設を目指す。

【本事業で養成する人材像】

本事業で養成する人材は、日本とロシアの互いの「特殊性」と「普遍性」から、各人の専門知識・技術を駆使して新時代の価値を創造し、それを礎に両国の未来を共に創り上げていくことのできるリーダーである。この人材は、専門知識に加え「異文化受容性」「現状認識力」「俯瞰的思考力」「創造(想像)力」「実践力」の5つの力を備えている。

【本事業の特徴】

「CoLAB(Collaboration LABoratory)の設置」「アントレプレナー教育の導入」「企業との連携によるプログラムの充実」「派遣・受入学生による学内・市民公開講座の開催」「自治体等との連携」といった特徴を持つ体系的で多層的な、質の保証された骨太の交流プログラムの実施を通じて、学生交流の規模を抜本的に拡大する。さらに、プログラムに地域住民・地域企業との交流を組み込むことで、金沢大学が目指す人材像に加え、将来の日露関係を担う人材育成に貢献するという点にある。

【交流予定人数】

	H29	H30	H31	H32	H33
学生の派遣	20	35	51	62	100
学生の受入	5	17	40	50	70

1. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【金沢大学】

【日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈カザン連邦大学での学生交流〉

学生交流プログラムを実施するためのプログラム運営委員会、基礎科学・先端科学プログラム実施小委員会、先制医療プログラム実施小委員会、文化交流プログラム実施小委員会、質保証小委員会等を設置した。文化交流プログラムの派遣と受入を実施するとともに、先端科学技術プログラム(環境科学分野)の派遣を実施した。基礎科学プログラム、先端科学技術プログラム(機械工学、情報科学)、先制医療プログラムについては、平成30年度からの実施に向け準備を進めた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

日本人学生3名を1年間の交換留学生としてカザン連邦大学に派遣。短期派遣の文化交流プログラム等で35名を派遣。

○ 外国人学生の受入

文化交流プログラムで6名を受入れ。(カザン連邦大学2名、国立イルクーツク大学2名、国立クラスノヤルスク医科大学2名)

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	20	38
学生の受入	5	6

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ キックオフシンポジウム及び外部評価委員会の開催

海外連携機関8機関から代表団(教職員及び学生)が来日。国内外から約120名以上が参加し、各界からの意見を頂いた。

○ ダブル・ディグリー・プログラム(修士)実施に向けた調整

2018年10月開始に向け、カザン連邦大学とカリキュラム、学位授与条件、留学時期、単位認定方法などについて協議。

○ ルーブリックの作成

本事業で養成する人材像が備えるべき5つの能力(異文化受容性、現状認識力、俯瞰的思考力、創造(想像)力、実践力)についてのルーブリックを作成した。日露で共有し、各プログラムにおける成績評価手法を確立する。

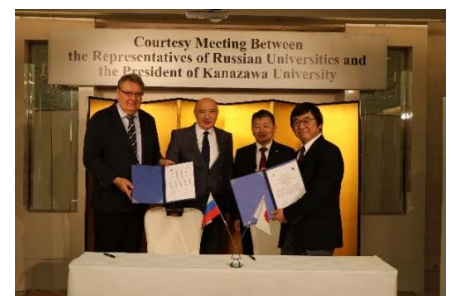


〈キックオフシンポジウム〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○ カザン連邦大学内、金沢大学事務所設置に向けた取り組み

金沢大学カザン連邦大学事務所の整備を進めた。また、学生交流を円滑に実施するため、本学の短期留学プログラムを修了し、カザン連邦大学の職員となった者に本学のカザン連邦大学常駐職員としての役割を果たしてもらうよう調整した。



〈カザン連邦とのDDPIに関する合意書の締結〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

○ ホームページでの広報

本プログラム専用Webサイトを立ち上げ、プログラム概要や連携機関、留学情報等を掲載。また、プログラムに参加した学生が留学先から写真や記事を自由に投稿できるActivity Reportページを設けた。すでに数十件の投稿があり、日露学生の声が集まるWebサイトになることが期待される。

○ 留学成果報告会を開催

平成29年度の学生派遣プログラムの留学成果報告会を開催した。成果報告をした学生らにとって、自らの経験を振り返る機会となり、また報告を聞いた学生からはロシアに関する質問が飛び交い、ロシアへの興味を持つきっかけとなった。



〈文化交流プログラム(受入れ)の修了式〉

■ グッドプラクティス等

○ 日本語履修大学生交流プログラムの開催が決定

「日本語履修大学生交流プログラム」(日露青年交流センター・金沢大学共催)を平成30年11月に金沢大学で開催することが決定。